



生年月日 昭・平

受験番号

氏名

# 第 1 回簿記検定試験答案用紙

× (ココロトジル) ×

## 1 級

| 試験地(会議所名) | 採点欄 |
|-----------|-----|
|           |     |

### 原 価 計 算

〔問 1〕 (1) 予算営業利益  円

(2) 売上高営業利益率  %

〔問 2〕 (1) 損益分岐点販売量 製品A  個

製品B  個

(2) 損益分岐点比率  %

(3) 経営レバレッジ係数

〔問 3〕 売上高営業利益率 12%を達成するための固定費削減額  円

〔問 4〕 (1) 最適セールス・ミックス 製品A  個

製品B  個

(2) 営業利益  円

〔問 5〕 (1) 最適セールス・ミックス 製品A  個

製品B  個

(2) 営業利益  円



氏名  
× (ココロトジル) ×

第2回簿記検定試験答案用紙

1 級

|           |     |
|-----------|-----|
| 試験地(会議所名) | 採点欄 |
|           |     |

原価計算

[問1]

製品別予算損益計算書

(単位：千円)

|                | 製品A | 製品B | 合計  |
|----------------|-----|-----|-----|
| 売上高            | ( ) | ( ) | ( ) |
| 変動製造原価         | ( ) | ( ) | ( ) |
| 販売費            | ( ) | ( ) | ( ) |
| 計              | ( ) | ( ) | ( ) |
| 貢献利益           | ( ) | ( ) | ( ) |
| 個別自由裁量製造固定費    | ( ) | ( ) | ( ) |
| 管理可能利益         | ( ) | ( ) | ( ) |
| 個別拘束製造固定費      | ( ) | ( ) | ( ) |
| 製品貢献利益         | ( ) | ( ) | ( ) |
| 共通固定費          |     |     | ( ) |
| 拘束製造固定費        |     |     | ( ) |
| 自由裁量販売・一般管理固定費 |     |     | ( ) |
| 拘束販売・一般管理固定費   |     |     | ( ) |
| 計              |     |     | ( ) |
| 営業利益           |     |     | ( ) |

[問2]

|     |          |         |        |
|-----|----------|---------|--------|
| 売上高 | 標準変動製造原価 | 標準変動販売費 | 実際貢献利益 |
| 千円  | 千円       | 千円      | 千円     |

[問3]

差異分析表(A)

(単位：千円)

|          | 製品A | 製品B | 合計         |
|----------|-----|-----|------------|
| 予算営業利益   | —   | —   |            |
| 売上高差異    | ( ) | ( ) | ( )        |
| 売上原価数量差異 | ( ) | ( ) | ( )        |
| 販売費数量差異  | ( ) | ( ) | ( )        |
| 変動費差異    | ( ) | ( ) | 87,420 (U) |
| 固定費差異    | —   | —   | ( )        |
| 実際営業利益   | —   | —   |            |

差異分析表(B)：売上高差異の分析

(単位：千円)

|     | 販売価格差異 | 販売数量差異 | 合計  |
|-----|--------|--------|-----|
| 製品A | ( )    | ( )    | ( ) |
| 製品B | ( )    | ( )    | ( ) |

差異分析表(C)：販売数量差異の分析

(単位：千円)

|     | 市場総需要量差異 | 市場占拠率差異 | 合計  |
|-----|----------|---------|-----|
| 製品A | ( )      | ( )     | ( ) |
| 製品B | ( )      | ( )     | ( ) |

差異分析表(D)：変動費差異の分析

(単位：千円)

|           | 製品A | 製品B | 合計         |
|-----------|-----|-----|------------|
| 直接材料費差異   | ( ) | ( ) | ( )        |
| 直接労務費差異   | ( ) | ( ) | ( )        |
| 変動製造間接費差異 | ( ) | ( ) | ( )        |
| 変動販売費差異   | ( ) | ( ) | ( )        |
| 合計        | ( ) | ( ) | 87,420 (U) |

(注) 各差異分析表の( )には、有利差異であれば「F」、不利差異であれば「U」と記入しなさい。  
なお、差異が0の場合は「—」と記入すればよい。



生年月日 昭・平 . . .

受験番号

氏名 \_\_\_\_\_

### 第 3 回 簿記検定試験答案用紙

× (ココロトジル) ×

# 1 級

| 試験地(会議所名) | 採点欄 |
|-----------|-----|
|           |     |

## 原 価 計 算

(注)  の中には適切な数値を記入し、( )内は不用な語句を二重線で消去しなさい。

[問 1]

機械設備の年間遊休生産能力  機械稼働時間

部品の内製可能量  個

[問 2]

( 内製 購入 ) する場合の方が、原価が  円低く有利である。

[問 3]

内製を  個、購入を  個とする組み合わせが最適である。

[問 4]

現有設備を  個、リース設備を  個とする組み合わせが最適である。

[問 5]

素材の年間必要量  kg

素材の経済的発注量  kg

経済的発注量での素材年間発注費と年間保管費の合計額  円



生年月日 昭・平 . . .

受験番号

氏名 \_\_\_\_\_

### 第 4 回簿記検定試験答案用紙

× (ココロツジル) ×

# 1 級

| 試験地(会議所名) | 採点欄 |
|-----------|-----|
|           |     |

## 原 価 計 算

〔問 1〕 (1) 製品 1 個あたりの変動費  円/個

(2) 年間固定製造間接費予算額  円

〔問 2〕

### 予算損益計算書 (単位：円)

売上高

変動費

貢献利益

固定費

営業利益

〔問 3〕 500 個の注文を引き受けることにより差額利益は  円となるので、

当社はこの注文を ( 引き受ける 引き受けない ) ほうが有利である。

(注) 二重線を引いて不要な文字を消しなさい。また差額利益がマイナスの場合、金額の前に「△」を付けること(〔問 5〕も同様)。

〔問 4〕 当社に損失の生じない 1 個あたりの最低受注価格は  円である。

〔問 5〕 1,000 個の注文を引き受けることにより差額利益は  円となるので、

当社はこの注文を ( 引き受ける 引き受けない ) ほうが有利である。

(注) 二重線を引いて不要な文字を消しなさい。

〔問 6〕 計画生産・販売量 8,500 個の営業利益を確保できる 1 個あたりの最低受注価格は

円である。





生年月日 昭・平

受験番号

氏名

### 第 5 回 簿記検定試験 答案用紙

× (コロヲトジル) ×

# 1 級

|           |     |
|-----------|-----|
| 試験地(会議所名) | 採点欄 |
|           |     |

## 原 価 計 算

〔問 1〕

|      | 1 個当たりの製造原価 | 販 売 価 格 |
|------|-------------|---------|
| 製品 E | 円           | 円       |
| 製品 F | 円           | 円       |
| 製品 G | 円           | 円       |

〔問 2〕

|      | 1 個当たりの製造原価 |
|------|-------------|
| 製品 E | 円           |
| 製品 F | 円           |
| 製品 G | 円           |

活動基準原価計算により製品原価計算を行った結果と、〔問 1〕の伝統的な原価計算の計算結果を比べると、  
伝統的な原価計算では、

製品 E は原価の負担額が  円 ( 過大 過小 ) に、

製品 F は  円 ( 過大 過小 ) に、

製品 G は  円 ( 過大 過小 ) になっていたことがわかる。

これを製品間における原価の内部相互補助という。

(注)  の中には適切な数値を記入し、( ) の中には不要な文字を二重線で消去しなさい。

〔問 3〕

(1) 工場全体の製造原価削減額  円

(2) 製品 G の仕損品発生率は何%引き下げることができたか  %

〔問 4〕

顧客が負担するトータルコストの現在価値  円



生年月日 昭・平

受験番号

氏名

### 第 6 回簿記検定試験答案用紙

× (ココヲトジル) ×

# 1 級

|           |     |
|-----------|-----|
| 試験地(会議所名) | 採点欄 |
|           |     |

## 原 価 計 算

〔問 1〕

|               |      |      |
|---------------|------|------|
|               | 製品 A | 製品 B |
| 製品 1 個当たり貢献利益 | 円/個  | 円/個  |

〔問 2〕

|                       |      |      |
|-----------------------|------|------|
|                       | 1 年度 | 2 年度 |
| 新規設備の利用に係る差額キャッシュ・フロー | 万円   | 万円   |

〔問 3〕

|                       |    |
|-----------------------|----|
| 新規設備の除却に係る差額キャッシュ・フロー | 万円 |
|-----------------------|----|

〔問 4〕

|                |    |
|----------------|----|
| 新規設備導入案の正味現在価値 | 万円 |
|----------------|----|

〔問 5〕

|                 |   |
|-----------------|---|
| 新規設備導入案の内部投資利益率 | % |
|-----------------|---|

〔問 6〕

答案作成に際し  には適当な金額を記入し、( )内の適切な言葉を○で囲みなさい。

(1)

製品 C4,000 個の注文を引き受けると利益が  円だけ( 増加 ・ 減少 )する。

よって、追加注文を( 引き受けるべきである ・ 引き受けるべきでない )。

製品 C7,000 個の注文を引き受けると利益が  円だけ( 増加 ・ 減少 )する。

よって、追加注文を( 引き受けるべきである ・ 引き受けるべきでない )。

(2)

(1)で受注が不利となる個数の場合において、製品 C の受注を有利とするためには、販売価格が

円より高ければよい。